

第54回隊友ふれあいウォーキング実施報告

「旧古川庭園から平塚神社、西ヶ原一里塚を経て飛鳥山公園へ」をテーマに、会員14名(内女性6名、夫婦3組)の参加を得て、3月30日(土)予定通り実施しました。

9時、南北線「西ヶ原駅」に集合し参加者の確認、資料配布の後、岩槻街道に出て、旧古川庭園へ。

この地は明治の元勲・陸奥宗光の別邸でしたが、宗光の次男が古河財閥の養子になった時、古河家の所有となりました。現在の洋館と洋風庭園の設計者は、鹿鳴館・ニコライ堂・旧岩崎庭園洋館等を手掛け日本建築界の発展に多大の貢献をした英国人建築家のジョサイア・コンドル(1852～1920)、日本庭園の作庭者は、京都の庭師・植治こと小川治兵衛(1860～1920)で、洋風庭園に勝るとも劣らない魅力的な庭園を造り上げています。この庭園は、大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在として平成18年(2006)に国の名勝に指定されました。庭園を一巡りした後、次の見学地の平塚神社へ。

平塚明神縁起絵巻によれば、義家兄弟が後三年の役凱旋の際、平塚城に逗留しましたが、城主豊島親義の厚い饗応を喜んで、鎧一領と護り本尊としていた十一面観音像を与えました。豊島氏は、子孫がこの鎧を着するに堪えないことを思い、且つ城鎮護の為、それを場内に埋め、その上に塚を築くとともに社を建て観音像を納めたと云えられています。平塚神社参拝の後、国指定史跡の西ヶ原一里塚へ。

江戸幕府は、慶長9年(1604)諸街道を整備し、街道一里毎に道の両側に塚を築き、塚の上に榎を植えました。榎を植えたのは、広く根が張り塚を崩さず枝も伸びて大木になる為とも、又街道の松並木と区別する為とも、またまた旅人の目印、休み場、馬子や駕籠の料金の目安としたとも云われています。

続いて向かったのは、旧渋沢邸です。渋沢栄一は、深谷市の富農の家に生まれ、のち一橋家に仕え、一橋慶喜15代将軍に従って幕臣となり、慶応3年(1867)徳川秋武に従い渡欧、資本主義的企業に感じて日本に於いても株式会社制度が必要であると考えて、維新後に大蔵省に入り、財政整理に当たる他、株式制度の指導に努めました。

明治6年、政変で辞職後は実業界を指導して金融機関を整備し、更に我が国の近代産業の基を開くとともに王子製紙、東京海上火災保険会社等多くの企業の創立を指導、又日本鉄道会社の発展にも尽くしました。これらの事は渋沢資料館に於いて詳しく学ぶことができます。

北区飛鳥山博物館は、北区の3万年の自然・歴史・文化を14のテーマに沿って展示をしており、区内の原始・古代の遺跡や、近世の名所としての王子・飛鳥山等を実物資料や復元模型・再現映像等で分かり易く紹介しています。

紙の博物館は、昭和25年我が国の洋紙発祥の地である王子に財団法人として設立され、古今東西の紙に関する資料を幅広く収集・保管・展示しています。

三つの博物館を研修の後、飛鳥山公園内の史跡を見学しながら予定の昼食会場に向かいました。往年のウォーキング仲間等との昼食会は、大いに盛り上がり懇親を深めました。



旧古河庭園



渋沢資料館